

2018/1  
No.274

**WAC**

WONDERFUL AGING CLUB

長寿社会文化協会

2018年1月31日発行 通巻274号

<http://www.wac.or.jp/>

E-mail: [iken@wac.or.jp](mailto:iken@wac.or.jp)



# ふれあい ねっと

Wonderful Aging Club Network and Communication



▼新理事長に升田忠昭さんが就任  
理事に新任3人、再任15人  
—— 定時総会で新体制を決める

▼川崎市で「介護人材マッチング事業」始める  
認知症カフェの開設支援講座  
千葉ふれプラの利用者、累計200万人に





升田忠昭  
新理事長

# 創立30年を機に 原点返りの改革を断行

この度、2017年6月のWAC定時総会後の理事会にて理事長に就任しました升田忠昭です。

## 一番ヶ瀬元会長の言葉を胸に

思い返しますと、米国主要企業3社の経営を卒業し、NPO/NGOの世界に参画したのは2002年で、その後、一番ヶ瀬康子WAC旧会長のご要請で、2005年にWAC理事長に就任しました。

その時、一番ヶ瀬会長がおっしゃった私への期待のお言葉は今でも覚えております。

「升田さん、WACとしての存在感を出していかないと、これからますますNPO/NGOが増えていき、WACはその中に埋もれてしまいます。WACとしての他にない存在感を出す最適な方法は、例えばAARP（旧全米退職者協会）とのタイアップです」。

このアドバイスを真摯に受け止めて、私は、過去20年以上にわたる米国主要企業での経営経験を活かし、AARPとのコンタクトにあたりました。

その後、私は、AARP日本事務所代表として、2006年にAARP主催で日本経済新聞社と高連協が協賛して日本において初めてのAARPフォーラム「Reinventing Retirement」を東京の国際連合大学で開催し、数名のAARPボード・メンバーが

参加され大成功を収めました。

## 10年ぶりの再チャレンジ

今回、10年の時を経て、再度、WAC理事長を仰せつかりましたが、まさしくWACにとって「基本的改革と新たな成長へのチャレンジ」の年であります。

WACの理念・目的である「豊かで活力のある長寿社会の構築と長寿社会文化の発展への寄与」のもと、モットーである「共に働き、社会に役立ち、元気に学び、もっと楽しもう」という原点に戻っての基本的改革が必須です。

少子高齢化及び地域格差が進む社会環境下において、WACの理念・目的を達成するために、次の4点を私の主要な抱負目標として、今後、具体的な施策につなげていきたいと思っております。

## 「高齢者の活動の場」の提供

まず、一つ目として、高齢者の活動の場を提供することによって、高齢者が能動的に活動できる（Active Aging）体制づくりを支援する。

二つ目として、高齢者の「自助」「互助」を効果的・効率的なものにすることによって、「健康年齢」の延伸を図り、社会的コストの軽減に貢献する。

三つ目として、「介助者」（家族・支援事業者）支援を効果的・効率的なものにすることによって、高品質・低価格な高齢者サービスを社会に提供することに貢献する。

最後は、高齢者の生活基盤充実のための社会システムの進展（Aging in Place）に貢献することです。

## AARPとの連携も視野に

同時に、次のことを強化していきます。WACポイントの再構築と活性化に向けた支援強化、それらの実現による個人会員の増強、また企業との連携強化による法人会員の増強に努めていきます。

また、AARPとのタイアップ可能な分野の検討も早急に進めていきます。

私、升田は現在AARPボランティアでその役割にあり、WACとAARPとの連携ブリッジ役を務めることができます。

本年2018年にWACは創立30周年を迎えます。会員のみなさまにとって、魅力ある新生WACを目指していきたいと存じます。その実現に向け、会員のみなさま方より、WACに対する積極的なご提案、また忌憚のないご意見を頂けたらと思います。

WAC理事長への就任にあたり、みなさまのご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後に、みなさまのご健康、ご多幸ならびにご活躍を祈念申し上げます。

## 升田忠昭さんが新理事長に 定款の一部改定、 役員「任期1年」議案は見送り

公益社団法人・長寿社会文化協会(WAC)は2017年6月28日、東京都港区の日本女子会館で定時総会を開いた。

正会員142人のうち、本人出席が33人、議決権行使書を届け出て出席と見なされたのは46人、合計79人となった。事務局長の小町純一さんから「正会員総数の過半数を超えており、定款第18条の規定により、総会が成立している」と報告があった。また、小町事務局長から「総会前に開かれた第2回理事会で須藤康夫理事長が辞任し、升田忠昭理事が立候補して理事長として承認された」ことが報告された。

次いで、定款第17条の規定により、総会の議長に茶山ちえ子さんを選出した。

### 第1号議案

#### 2016年度事業報告

茶山議長が「決議事項の第1号議案

について小町事務局長から報告をお願いします」と要請し、小町事務局長と担当理事から報告があった。

#### 【公益事業1】

千葉県からの指定管理者事業の千葉県福祉ふれあいプラザは、第3期指定管理の3年目であり、総利用者数が2年連続20万人を超えた。認知症予防に関しては講演会、介護予防講習「ピンキョリ初歩麻雀」、学会発表などを実施した。県による評価では優良の総合評価を受けた。

福祉サービスの第三者評価事業は、評価件数は48件、収入実績は予算をクリアしている。昨年度は事業として認められ、正式な事業としてスタートした。一般管理費を負担した上で、目標のプラスマイナスゼロはほぼ達成できた。

機関誌の「ふれあいねっと」は4回発行した。本部事業とポイントの活動を取り上げた。

#### 【公益事業2】

「みなと\*しごと55」は就職者数が減少した。しかし、ポスティング、再就職支援セミナーや合同就職面接会などで地道な努力をして、都内のアクティブシニア就業センターで2番目の実績を上げている。

#### 【公益事業3】

WAC独自事業としてコミュニティカフェ開設講座を2期行った。また、認知症カフェ・ケアラズカフェ開設講座を初めて開き、受講生が介護事業所などに広がった。その中から8人が、3月に開かれた全国交流会に出席し、約150人の前で開設プランを発表した。その他、千葉県柏市で開設者の学び直し講座、川崎市宮前区で開設講座の運営や講師として加わった。

#### 【収益事業1】

介護職員初任者研修は、ポイントのふれあいネットまつどや東京都北区、川崎市で開催した。2015年度に引き続き、東京しごと財団からの委託で生活支援サービス研修を年6回開催した。その他、愛知県でも生活支援サービス研修を行った。高齢者疑似体験や認知症についての講義を入れた内容とした。

#### 【収益事業2】

高齢者疑似体験事業は厳しいが、研修依頼は堅調だった。103人がイン





ストラクター養成研修を修了した。認知症疑似体験事業は、大阪の「バリアフリー展」への出展、山梨県立介護実習普及センターでインストラクター養成研修などを行った。

### 【収益事業3】

品川区委託事業として健康マージャン、男の手料理教室、パイゲームを行った。パイゲームは品川区の介護予防事業に採用されなかったが、モデル教室を継続した。

### 2016年度収支実績

小町事務局長から「財務諸表を見ると厳しい状況で、収支差は990万7千円のマイナスに終わった。高齢者疑似体験が大幅に減少し、会費も低調だった。しかし、事業報告、会計とも適正と認められることを鈴木誠監事に確認した」と報告された。

事業報告に関連して、会員から「会計に熊本支援活動は入っていないのか」という質問が出て、小町事務局長が「100万円の助成金を頂いて、約90万円支出し、残りはお返しした」と答えた。

議長が採決に入り、第1号議案は全員賛成で承認された。

## 第2号議案

### 2017年度事業計画

小町事務局長と担当理事から提案趣

旨の説明があった。

### 【公益事業1】

千葉県福祉ふれあいプラザは、認知症助け合いカフェの人数が減少しているのを見直す。研修は応募が多く、内容を充実していく。

第三者評価事業は、事務局体制の見直しが今後の課題。単価を上げるために評価の質の向上、新規顧客の開拓に取り組む。

「ふれあいねつと」は、年6回の発行を目指す。

### 【公益事業2】

「みなと\*しごと55」は、5年間の契約更新となった。

### 【公益事業3】

コミュニティカフェ事業を引き続き進める。認知症カフェの開講講座を開催し、多くの方の参加を期待している。

### 【収益事業1】

昨年度までパソナから受注していた川崎市の研修を直接受託した。受講料が各地で値下がりしてきており、その中で、差別化が課題。

### 【収益事業2】

高齢者疑似体験事業は、既存購入先へは長期レンタルなどでフォローを行うっていく。新規開拓として、自動車事故の防止のために研修導入を提案する。認知症疑似体験はテレビニュースに取り上げられた影響もあり、問い合わせが増えた。開発から年数が経っている

ので今年度、調査研究をしていく。

### 【収益事業3】

品川区委託事業を継続する。

事業計画に関連して、会員から、ポイントに対するメリット、外国人技能実習制度について質問が出され、質疑応答がなされた。また、会員の活用やPR、情報交流についての意見が出された。

議長が採決に入り、第2号議案は全員賛成で承認された。

## 第3号議案

### 定款の一部改定について

小町事務局長の提案趣旨説明のあと、会員から、役員の任期を1年とすることの反対意見が相次ぎ、質疑応答がなされた。原案の一部を修正する提案意見が出されたが、顧問弁護士から、すでに議決権行使書により41人の賛成票があるが、新たな修正案について出席会員の3分の2以上の賛成を得ることはできず、本総会内で可決される可能性がないこと、条項ごとの賛否ではなく原案全体に対しての賛否をとることが説明された。

議長が採決に入り、第3号議案は賛成が出席正会員79人の議決権の3分の2以上に当たる53人に達しなかったため、定款第19条に基づき否決された。

### 第4号議案

「役員報酬並びに費用に関する規程」の一部改定について

小町事務局長の提案趣旨説明のあと、会員から、第3号議案の否決との関係、第4条の妥当性について質問が出され、質疑応答がなされた。顧問弁護士から、第4号議案はもともとある規程を改定するもので、第3号議案と関係なく決議できることが説明された。

議長が採決に入り、第4号議案は満場異議なくこれを承認可決した。

### 第5号議案

役員報酬限度額について

小町事務局長から提案趣旨説明、顧問弁護士から第3号議案との関係について説明があり、第5号議案は否決された。

### 第6号議案

理事の任期満了に伴う定期改選

### 第7号議案

監事の任期満了に伴う定期改選

茶山議長が「役員選挙は平成29年5月24日に改定された役員選挙管理規程に基づいて実施される」として、鷹野義量選挙管理委員長に対し選挙の実施方法について説明を求めた。

鷹野選挙管理委員長から、第3号議案が否決されたことにより、現在の監事の任期は4年のままとなり、第7号議案は成立しないことが説明された。また、経過報告及び投票方法の説明があった。

鷹野選挙管理委員長が「理事立候補者20人全員が有効投票数の過半数を超える賛成を獲得した」と選挙結果を報告し、賛成多数で第6号議案は承認可決された。なお、個別の投票結果は別途閲覧できるようにした。

選出した理事は次の各氏である（五十音順、敬称略、辞退した1人を除く19人）。

浅川明子、浅川澄一、梅原ゆき江、小川真誠、角湯千鶴、瀬瀬恵美子、小林里美、小町純一、須藤康夫、高倉幸次、田中千世子、茶山ちえ子、西川周子、浜洋子、平野陽子、藤井紘一郎、升田忠昭、町野美和、三宅章之。

以上で、定時総会の議案審議はすべて終了し、議長は閉会を宣言した。

15分の休憩の間に、第3回理事会を開き、代表理事と常務理事を選出した。以下のとおり（五十音順、敬称略）。  
代表理事・理事長に升田忠昭、常務理事に浅川澄一、梅原ゆき江、角湯千鶴、小林里美、小町純一、高倉幸次、茶山ちえ子、平野陽子。  
引き続き同会場で懇親会を開いた。

2016年度収支実績

事業名	収入			支出			収支差		参考 2015年度 収支実績	
	①	②	③	④	⑤	⑥	①-④	②-⑤		
	収入予算	収入実績	達成率	支出予算	支出実績	消化率	予算収支	収支実績		
事業	公1 千葉県指定管理事業	87,075	87,327	100%	89,075	88,404	99%	-2,000	-1,077	-6,659
	福祉サービス第三者評価事業	10,000	13,724	137%	10,000	13,139	131%	0	585	3,317
	ふれあいねっと	0	0	0%	5,000	3,413	68%	-5,000	-3,413	-1,500
	計	97,075	101,051	104%	104,075	104,956	101%	-7,000	-3,905	-4,842
	公2 みなと*しごと55	24,506	24,506	100%	24,506	24,506	100%	0	0	0
	計	24,506	24,506	100%	24,506	24,506	100%	0	0	0
	公3 コミュニティカフェ事業	1,000	1,499	150%	4,000	3,159	79%	-3,000	-1,660	-2,843
	計	1,000	1,499	150%	4,000	3,159	79%	-3,000	-1,660	-2,843
	<b>公益事業合計 (A)</b>	<b>122,581</b>	<b>127,056</b>	<b>104%</b>	<b>132,581</b>	<b>132,621</b>	<b>100%</b>	<b>-10,000</b>	<b>-5,565</b>	<b>-7,685</b>
	収1 受託研修	16,000	17,511	109%	14,000	15,106	108%	2,000	2,405	2,658
計	16,000	17,511	109%	14,000	15,106	108%	2,000	2,405	2,658	
収2 高齢者疑似体験	25,000	17,490	70%	13,000	11,356	87%	12,000	6,134	13,629	
認知症疑似体験	2,000	1,225	61%	1,500	1,383	92%	500	-158	-400	
計	27,000	18,715	69%	14,500	12,739	88%	12,500	5,976	13,229	
収3 料理教室・健康マージャン等	7,100	7,125	100%	7,000	8,123	116%	100	-998	-412	
計	7,100	7,125	100%	7,000	8,123	116%	100	-998	-412	
<b>収益事業合計 (B)</b>	<b>50,100</b>	<b>43,351</b>	<b>87%</b>	<b>35,500</b>	<b>35,967</b>	<b>101%</b>	<b>14,600</b>	<b>7,384</b>	<b>15,475</b>	
<b>公益事業・収益事業 (A+B) 合計</b>	<b>172,681</b>	<b>170,407</b>	<b>99%</b>	<b>168,081</b>	<b>168,588</b>	<b>100%</b>	<b>4,600</b>	<b>1,819</b>	<b>7,790</b>	
共通	会費収入・雑収益	13,800	9,837	71%	0	0	0%	13,800	9,837	12,086
	管理費	0	0	0%	17,600	20,780	118%	-17,600	-20,780	-16,069
	組織運営費	0	0	0%	800	783	98%	-800	-783	-136
<b>共通 (法人会計) 合計</b>	<b>13,800</b>	<b>9,837</b>	<b>71%</b>	<b>18,400</b>	<b>21,563</b>	<b>117%</b>	<b>-4,600</b>	<b>-11,726</b>	<b>-4,119</b>	
<b>公益法人合計</b>	<b>186,481</b>	<b>180,244</b>	<b>97%</b>	<b>186,481</b>	<b>190,151</b>	<b>102%</b>	<b>0</b>	<b>-9,907</b>	<b>3,671</b>	

(単位：千円)

## 三宅 章之

◎NPO法人福祉のとも・あゆみ 副理事長

♥WACの理念「働き、学び、役立ち、楽しもう」を大事にし、地域住民（子供、障がい者、高齢者）の誰もが安全・安心な生活ができるよう、皆さんと協力し合いながら活動していきます。また、高齢者、障がい者が有償・無償で働ける場所づくりを市民とともに模索していきます。WAC会員としてその名に恥じぬよう地域福祉に貢献していきます。

## 浅川 明子

♥高齢者疑似体験プログラム「うらしま太郎」のインストラクターとして、WACポイントの認定NPO法人「ケア・ハンズ」を経由し、1999年よりWAC事務局職員として従事しています。高齢者疑似体験プログラム「うらしま太郎」の研修、また近年はヘルパー研修にも携わっています。WACでの活動を基盤としながら、日本歯科大学東京短期大学においても非常勤講師を務めています。これまで培った経験を活かし、よりよい高齢社会へ貢献する活動を、今後とも持続していきたいと思っております。

## 町野 美和

◎千葉ケア企業組合 代表理事

♥1989年にWACに入職。ヘルパー研修、子育て支援、認知症疑似体験などの事業を推進。2010年のWAC退職後も東京都港区のパソコン教室や千代田区の認知症予防教室、基金訓練・求職者支援事業のWAC千葉校などの事業に携わる。同年千葉ケア企業組合の「ケアマネまさご」、「デイサービスまさご」、「ヘルパーまさご」を起業し、介護予防・介護保険事業を実施。13年にWACの理事に就任。介護職員研修や地域包括ケアを通じ、WACの心を伝播し、会員拡大に努めたい。

## 小川 真誠

◎NPO法人日本心身機能活性療法指導士会 理事長

♥高齢者の健康増進を目的に、ゲートボールの普及促進に励む。「国土庁長官杯全国・離島交流ゲートボール親善大会」や交通遺児育成のための「ゲートボールあしながおじさんチャリティ大会」等の運営を行う。1991年「日本ゲートボール協会」を設立し、認知症や脳卒中後遺症の改善プログラムを開発。2001年NPO法人「日本心身機能活性療法指導士会」を設立し、認知症改善プログラムの「心身機能活性運動療法」の普及を推進している。海外では香港、上海、台湾等で活動。

## 須藤 康夫

◎シニアビジネス団体 常務理事  
全国通訳案内士

♥1976年一橋大学を卒業し大東京火災海上保険に入社。2005年10月あいおい基礎研究所代表取締役社長、2010年4月MS & AD基礎研究所代表取締役社長、2015年4月MS & AD基礎研究所顧問。同年6月から2017年6月まで公益社団法人長寿社会文化協会理事長。

## 藤井 紘一郎

♥今回で理事就任は連続8期となります。WACが進める「少子高齢化社会に向けた文化の創造」という仕事に関わらせていただき、永い間一般企業で働いた私にとっては、まったく新しい世界であり、いわば、第2の人生を過ごさせていただくことができました。この間、主にWACのマネジメントと第三者評価事業についての課題提起、事業体制づくりに携わりました。公益社団法人となったWACは、今後、一層公益に貢献し、そのための体制、体質づくりが肝要であると思っています。

## 纈纈 恵美子

◎あいあいず株式会社 代表取締役  
居宅介護支援事業所の管理者  
福祉用具専門相談員研修講師、介護支援専門員実務・専門Ⅰ・Ⅱの講師

♥現役の主任介護支援専門員として他者のために自らできることは何かを考え、日々行動できる人でありたいと思います。WACでは社会貢献の義務と責任を果たすべく努めてまいります。厳しい時だからこそ、心をついに会員・役員・事務局が一体となってチーム「オールWAC」を微力ながら作り上げていきたいと思っております。現場の声に真摯に耳を傾け、誇りを持って仕事ができる環境を作れるよう取り組んでまいります。この仕事に夢が持て、自らの技能や知識を活かしていけるよう、全力で取り組ませていただきます。

## 浜 洋子

◎NPO法人福祉コミュニティ大田 代表理事  
NPO法人大田区介護支援専門員連絡会 理事長

♥私の手元には、1998年3月の日付、南品川の住所で、下河辺淳WAC会長名の「ホームヘルパー3級」修了証があります。超ショートカットのまだ若い私の顔写真が付いています。WACとおつきあいは、地域活動の仲間がポイントとして活動しているなどあって、介護福祉の仕事を始めにあたり、3級の資格から「WACまごころサービス」で有償ボランティアとして学ばせていただくことから始まりました。現在代表を担っていますNPO法人「福祉コミュニティ大田」も設立から18年。WACで学ばせていただいたことへのお返し、また新たにご一緒できることを探すため、今回理事の任を頂きました。よろしくお願ひします！

## 西川 周子

♥これからは、シニアが人口の大きなパーセントを占める社会になると考えられます。私たちシニアが、少しずつの力であっても、それぞれの力を社会に役立てていければと考えています。訪問看護、ケアマネージャー、初任者研修など在宅介護のサポートに長年携わってきました経験が少しでも、お役にたてればと思っています。

## 田中 千世子

♥現在、厚生労働省の「生涯現役促進地域連携事業」（55歳以上の高齢者の就業支援）に従事しています。高齢者の不安3K（健康・金・孤独）は、「働く」ことで改善できることも多いと思っております。80歳になっても現役であること、そのためには「NOから始めないで」と伝え続けています。

## 梅原 ゆき江

♥私は看護師としての最終の仕事に在宅看護を選びました。プロのヘルパーを育てたいとWACのヘルパー養成にも参加し、「訪問看護ステーションさくら」に在職中。WACがより一層活性化できるように尽力したい。WAC活動の可視化の工夫と会員同士の交流を深めるようにします。そして会員拡大に努めたい。参加したら楽しいと言われるサロン、勉強の場をつくりたいと考えています。会員の皆様からお知恵を頂きたいので待っています。

## 高倉 幸次

◎WAC近畿ネットワークセンター代表  
ほっとケアまほろば(滋賀県草津市)代表、診療放射線技師  
ホームヘルパー2級、奈良薬師寺僧侶

♥2002年一番ヶ瀬康子元会長とのご縁で入会。「地域3世代子育て支援事業」に参画、03～04年認知症疑似体験インストラクターを務め、07年から認知症予防健康マージャンとサロンを開催。12年「安心を皆で育むまちづくり事業」。13・14年度滋賀県介護予防事業。14年度から「WAC在宅介護フォーラム in 滋賀」を開催。入鹿山松子氏より近畿ネットワークセンターを引き継ぐ。2018年度、WACは設立30年を迎える。担当の一員として、記念事業成功に尽力する。

## 小林 里美

♥子育て中に勤務していた柏市身障者機能回復訓練センターでWAC介護教室を知る。同教室を受講中の1994年7月、スカウトされてWACに入職。介護教室、在宅介護フォーラム、認知症ケアを担当して全国を飛び回り、海外出張の機会も。2006年、WACが千葉県福祉ふれあいプラザの指定管理者となったと同時に同施設の統括責任者となり、現在に至る。2011年に理事、2013年から常務理事。2018年、WACは設立30年。支えてくださった会員の皆さんとともに喜べる記念行事・節目を迎えられるよう努めます。

## 監事

## 菊地 敏夫

◎社会福祉法人清流会 評議委員、NPO法人サンフラワー21 理事  
NPO法人つきの里 監事

♥製造会社および病院に勤務。病院事務長職を十数年務め、2003年に退職した。02年～15年まで医療・福祉の技術専門家としてISO審査に従事。09年WAC会員。13年WAC理事、15年WAC監事就任。現在神奈川県および東京都の福祉サービス第三者評価の評価者を務める。趣味は家庭園芸、トレッキング、写真、読書など。

## 鈴木 誠 ◎税理士

♥1983年に税理士登録し、税理士事務所開業。服部万里子さんの縁で2013年にWAC監事に就任。税理士としての職能を活かして、一般法人よりも厳格さが求められる公益法人の監査に務めたい。

## 小町 純一

♥長崎市生まれ。大東京火災海上保険(現あいおいニッセイ同和損害保険)に入社。営業畑を約30年間。2006年あいおい生命に出向。またも現場職で、その後コンプライアンス部を経て、13年10月退職。新入社員と支店長として10年間過ごした鹿児島支店時代が印象深い。美味しい焼酎、食べ物を堪能し、霧島・指宿などの温泉を楽しんだ。13年11月、WACの事務局長に就任。15年常務理事。事務局として、多岐にわたる事業のサポートを最大限果たし、WACの基盤強化に尽力していきたい。休日は地域の仲間と交流している。

## 茶山 ちえ子

◎WAC中国ネットワークセンター代表  
NPO法人WAC広島ふれあいセンター 理事長  
市民福祉ネットワーク「ひろしま」代表幹事

♥私は1974年に北海道から広島へ嫁ぎ、2人の子供たちはそれぞれ一家を構え、現在は夫と介護4の車椅子生活の姑と3人で暮らしています。WACへは1995年に入会し、広島での生活の約半分をWACと共に過ごしてきたことになり。WACの置かれた環境も時代とともに変わってきていますが、これからもWACの和がますます広がるよう、本部と地域との橋渡しを続けていきたいと思っています。

## 平野 陽子

♥1999年からWAC事務局職員として研修事業に従事しています。今後は、他団体との連携やポイント活動の活性化につながる事業や活動をつくりあげていきたい。理事、ポイント、会員、事務局職員の役割をそれぞれ明確にし、WACの創立30周年に向けて会員を増やし、活動を広めていきたい。

## 角湯 千鶴

◎インテリアデザイナー

♥WACの常務理事で最古参になり驚いています。最近、福祉インテリアの仕事が多くなりました。団塊の世代が定年を迎え、老人施設に入所が難しくなるとわれ、建築会社でも在宅介護に関心を示し、また年金、介護、医療、認知症、老人施設の種類の機能など多くの情報を求めています。私が実施した講座でも参加者が多く、継続希望も多く、WACと企業との橋渡しをしていこうと思っています。船旅、ウォーキング、俳句が趣味で、好奇心旺盛な高齢者を目指しています。

## 浅川 澄一 ◎ジャーナリスト

♥1971年に慶應義塾大学経済学部を卒業し、日本経済新聞社に入社し新聞記者生活に入る。1987年に月刊誌「日経トレンド」を創刊し、5年間編集長を務める。2011年に定年退社するまでの直前13年間は、介護保険制度を中心に、高齢者ケアや待機児問題、地域のNPO活動などを取材、執筆する。著書に「これこそ欲しい介護サービス!」「あなたが始めるケア付き住宅」など。6年前からオランダと英国への海外視察を毎年のように企画し訪問している。城や建築好きが高じて、日本城郭検定3級証書を取得、すみだ北斎美術館一日館長も務めた。

## 介護人材マッチング・定着支援事業 川崎市からの委託事業

2017年4月に、神奈川県川崎市の「介護人材マッチング・定着支援事業」の企画提案に応募しました。応募者はWACともう1社で、その中からWACの企画提案が採用されました。

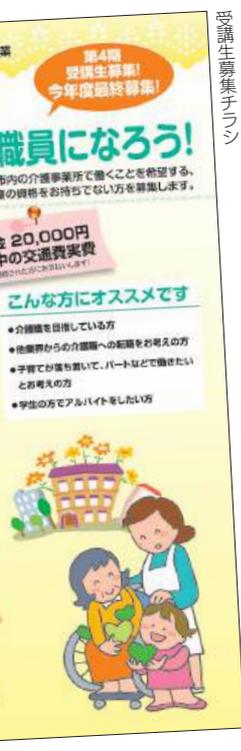
川崎市からの委託事業として、17年6月から18年3月末日まで行います。

川崎市介護人材マッチング・定着支援事業には2つの柱があります。

一つは、求職者への介護職員初任者研修と、介護職として働くために必要な知識や技術を習得してもらい、そしてそれらの終了後に、川崎市内の介護保険サービス事業所への就労のための人材紹介を行う

こと、もう一つは、介護保険サービス事業所の職員向けに採用力、新任職員育成力向上、職員の定着を図るためのインストラクター研修を行うことです。

受講期間は約6カ月です。前半の3カ月は座学による研修、求職者との交流研修や就職相談会も行います。後半3カ月は、研修と並行して、OJT研修（求職者の受け入れ）を実施し、最終回には、成果発表会を行います。



このマッチング事業は昨年、株式会社パソナが受託し、その中でWACは介護職員初任者研修だけを担当しました。求職者はパソナからの派遣社員として、介護施設

で働いていました。川崎市からの委託事業者の条件として、「派遣業をできる事業所」とあり

ました。ところが、今年度は「派遣業をできる事業所」という条件がなくなり、「紹介」ができればよいことになったために、WACも応募できるよ



就職相談会の面談風景

うになりました。したがって、求職者は介護保険サービス事業所に直接雇用されます。

プレゼンテーションには、この事業を計画立案する際に協力いただいた田中千世子理事も同行し、一緒に平野と2人で行いました。

川崎市の関係部署の責任者が5人ほど来ているなか、15分間の緊張のプレゼンを行いました。

「昨年との違いはどのような点ですか?」「生活保護者の方への就労支援はどのようにしますか?」などの質問を受けました。受け答えについては、事前に何度も練習しました。しかし、本番になるとなかなか笑顔がつけられず、表情がひきつってしまい、田中さんに助けられました。

求職者向けの介護職員初任者研修は第1期から第4期まで各15人、介護保険事

業所向けのインストラクター研修は第1期から第3期まで各15人となっています。17年7月から第1期の介護保険サービス事業所のインストラクター研修が始まり、8月からは求職者の介護職員初任者研修が始まりました。7月から18年3月までにインストラクター研修を3回、求職者向けの研修を4回行います。

求職者の第1期生は、男性と女性が半数ずつでした。研修初日はとても硬い表情でどうなるか心配しましたが、授業が進むにつれてコミュニケーションをとりあい、皆さん打ち解けて明るい教室になっていきました。すでに第1期生の方々は川崎市内の介護保険サービス事業所で働いています。

求職者とインストラクターの交流研修を行い、まずは求職者とインストラクターが顔見知りになることで、事業所を知ることができ、求職者全員が就職できるように、それぞれの就職先とのマッチングがスムーズにいくようにしたいと思っています。事業を行うために、パソナで昨年まで川崎市の就労支援事業を担当していた向井隆康さんをWAC職員として採用しました。また、パソナからは、鶴我知香江さんと橋本ありさを派遣していただいていると聞いています。

川崎市から来年度の事業見積もり依頼も来ていますので、来年度もぜひ継続してこの事業ができるように良い結果を残したいです。(研修・教育事業担当常務理事/平野陽子)

# お年寄り体験を実施 東京都台東区の小学校で 高齢者疑似体験

「体が重い…」「文字が見えないよ」「小銭入れからお金を取り出せない！」元氣な小学生の驚きの声飛び交っている。

2017年9月14日、台東区立富士小学校で3年生全員94人が高齢者疑似体験「つくし君」を装着して、お年寄りの心身の変化を体験した。当日は担任の先生や取材に来ていたPTAの方にも、うらしま太郎を体験してもらい、子どもたちの関心も一層高まった。

体験後の感想発表では大勢から手が上がり、「お年寄りの気持ちがあかった」「こんなに大変だとびっくりした」と各自思いを話した。

子どもたちに対して「高齢者理解」を促す取り組みは、台東区福祉部福祉課が2009年にスタートした施策で、当初、モデル校1校と児童館および健康祭りでの体験をWACが受託して実施した。

その後、徐々に体験を授業に取り入れる学校が増え、昨年度からは台東区内の研修を希望するすべての小学校で体験が可能となった。今年度は全19校のうち16校909人が参加、来年度は17校1033人が研修を予定している。

台東区は区内でも高齢化率が高く、当日体験した子どもたちのうち3分の2以上が祖父・祖母との同居、近居家庭である。観光で台東区を訪れる高齢者も多い



小銭入れや辞書を使用してお年寄りの不自由さを体験する。



先生も20年後の自分に思いをはせて体験に熱が入る。

ため、高齢者に優しい台東区の子ども育成への支援としてWACの担う役割は大きい。

インストラクターとして学校を訪問する私たちは、子どもたちにお年寄りへの気遣いを伝えると同時に、子どもたちから笑顔と元気をもらい、毎回楽しく研修を行っている。

(研修・教育事業部主任/榊芳子)

# 就職者は148人 紹介件数376件に みなと\*しごと55

日本はまもなく3人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えようとしています。そういう社会の中では、高齢者も重要な労働力とならざるを得ません。

また、働く意欲のある高齢者が、年齢にかかわらずその能力や経験を活かして生涯現役で活躍し続けられる社会環境を整えていく必要があります。

「みなと\*しごと55」は、おおむね55歳以上の求職者を対象とした無料職業紹介事業、就業促進事業を行い、多様な働き方を支援する「就業支援窓口」です。

今後も求職者減と高い有効求人倍率の状況は変わらないと予測される中、以下のような目標、実績となっています。2017年4月から11月までの8カ月の実績です。

## ●就職者数

2017年度累積148人

(目標280人、達成率52・9%)

## ●求人開拓

2017年度累積1142件／

2525人

(目標1600件／3300人、

達成率71・4%／76・5%)

## ●求職者数(みなと\*しごと55への来所者数)

2017年度累積1243人

(目標2200人、達成率56・5%)  
●紹介件数(紹介状発行件数)  
2017年度累積376件  
(目標700件、達成率53・7%)

6月と9月の2回、再就職支援セミナーと合同面接会を開催しました。

当初計画の目標達成のためには、みなと\*しごと55が認知不足の面もあるので、できる限りの媒体を通して認知度をアップさせ、求人潜在層へのアプローチを図る努力をしています。

みなと\*しごと55へのコンタクトのきっかけを作ります。そして、求職者への丁寧な対応と情報提供がポイントとなります。そのためにも、魅力ある(求職者のニーズに合った)求人を集めていくことが重要と考え、2017年度末に向けて、努力していきたいと思えます。

(所長/小野澤誠)



再就職支援セミナーの講師を務める筆者

## 利用者数は累計200万人に 新しいことを楽しみながら地域とともに

### 千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理事業

千葉県福祉ふれあいプラザ（ふれプラ）の指定管理を始めた2006年は成年だった。一巡して今年また成年を迎えた。その2018年は指定管理者が更新される節目の年でもある。

年間利用者数は20万人を超え、17年度末には開館以来の利用者数の累計が200万人に達しようとしている。

ふれプラは指定管理で運営されている公立施設である。「千葉県福祉ふれあいプラザ設置管理条例」に基づいて運営する県の施設であるため、事業評価に「県が行うべき事業であるか」といった、市町村が行う事業との違いを求められる。

違いだけではなく、県は市町村支援を担うため、的確な支援となっているのが評価の基準になってくる。幸い、県からの指定管理者管理運営評価は3年連続で最上位の「優良」を頂いている。

市町村支援として、近年力を入れてるのが地域包括支援センターへの支援である。特に市町村や地域包括支援センターの職員を対象として行う「介護予防担当者研修」はダイレクトに支援できるだけでなく、支援方法を探るための情報収集にも役立つ特別な研修である。

総合事業の開始に伴い、急激に数が増えた地域包括支援センターは、市町村間

では数量的格差、市町村内では地域差・質的格差が生じている。現場で役立つ研修テーマの選択は、地域差に影響ない汎用性のあるものと特定の地域やセンターからの要望に基づく個別なものに分けて行っている。

前者は介護保険法改正に関する動向や



実習に来た国際医療福祉大学成田看護学部の学生たちと話す介護予防トレーニングセンターの利用者

新たな視点などである。後者は基本的に要望があった市町村に出張して行う。

17年9月に千葉県市川市で実施した研修テーマは、市川市が決めた「ファシリテーター」。市川市は3年前まで4カ所しかなかった地域包括支援センターが現在15カ所ある。

地域包括ケアシステムの中心的役割を担うための会議運営能力を高めて、急激な変化に伴う地域差を埋めることを目標とした。研修には市内すべての地域包括支援センターが参加した。

ふれプラでは常に更新を前提として1年目から5年後を見据えて事業計画を練り、事業遂行に励んできた。

具体的には、認知症カフェを拡大、認知症予防の「オレンジ教室」をバージョンアップ、総合事業にも活用できる運動と健康マージャンを組み合わせた「ピンピンキラリ初歩麻雀」など社会の要請に沿った事業を、工夫を凝らして行ってきた。認知症啓発イベントやサマーコンサートなどの既存の自主事業も、内容を大胆に変えつつチャレンジ精神で実施してきた。

積極的に新しいこと、予せぬ事態に対処できたのは、約50人いる職員が諸所で活かされたからにはほかならない。



南房総市の介護老人保健施設の専門職研修に講師を派遣

一方、開館以来、苦戦してきたのが情報発信である。利用拡大に重点を置いていたため、発信する情報のほとんどが募集や事業案内に偏ってしまっていた。

情報発信の強化を行うためWAC本部から人材を補強、17年度からは講演内容など最新情報をホームページなどで発表して情報拡散に努めている。

現在、ホームページでは、17年11月に行い、2000人以上が参加した「千葉県福祉機器展」の開催報告を掲載している（11頁に関連記事）。その他の施設内容や研修ガイドなど、一度、ふれプラのホームページをご覧ください。

（統括責任者・常務理事／小林里美）

## 2千人余が来場し、 介護・認知症対応機器を体験

### 千葉県福祉ふれあいプラザ

2017年11月10日(金)～11日(土)、「第12回千葉県福祉機器展」を開催し、出展者を含め2088人が参加した。

今回は介護支援ロボットや見守りセンサー、アルツハイマー型認知症早期発見・物忘れ相談プログラムのほか、各分野の最新機器を展示し、来場者に体験してもらった。

また、介護人材発掘の観点から福祉・介護事業者と専門学校生によるトークやデイサービスの利用者の作品展示などを新しく取り入れて、介護福祉関係者の直面している課題に対応する企画をより多く実施した。

地元の専門学校生や高校生、ハローワークや地域包括支援センターなどの参加も得て、「各方面の連携の場」としても有意義な福祉機器展を目指した。

機器展の冒頭では、浴風会認知症介護研究・研修東京センター研究部長の永田久美子さんが「認知症になっても安心・安全に暮らせるまちを目指して」と題して講演。「地域の『つながり・理解・支援』を増やすと、認知症の発症や状態悪化を遅らせることができる。『からだ』や『心』、『暮らし方・環境』といった要素も大きく影響する。特別なことをしなくても、家に閉じこもっていないで外に出て、よく眠り、栄養不良にならないようにすることが大事。急に物忘れが多くなった

り、話や行動が変になったりしたら、点検しよう。医師や地域包括との相談を先送りしないことも重要だ」と話した。

永田さんはこれからのためのポイントとして、「認知症になったとしても、隠さないうで早くオープンにしよう。一人で頑張らず、『認知症になっても一緒に』と言い合える仲間やつながりを増やそう。自分の大切なこと、大事にしたいつながりを書き留めておこう」などと提案した。

(管理部広報担当/昆布山良則)



第1 ギャラリーの手芸療法体験コーナー（手前）とデイサービス利用者の作品展示

## 中期目標実現に向け

### 新たな事業戦略の確実な実行

#### 福祉サービスの第三者評価事業

第三者評価事業は今期活動のスタートにあたり、WACの事業として自立し、公益事業の一翼を担う事業を目指し、事業理念に則した中期計画を策定しました。

計画のテーマは「事業体制の確立」を掲げ、すべてを見直し、新たな事業戦略を立案し、確実な実行を推進するものです。中期計画については、WACの正会員でもある評価者の皆さんにも周知し、第三者評価事業関係者全員で取り組むこととしました。

今までは入札による評価先が多く、収益体質も脆弱で、WACの経費負担は何かできていましたが、安定性に欠けていました。また、第三者評価の質についても求めるところから見れば、まだばらつきがあるというのが正直なところです。

今期はそのような体質からの脱却を目指し、事業体質の確立に向けた事業戦略を検討しました。具体的には以下の通りです。

- ① 評価の質の向上…事業者の満足を得られるよう、総合的な評価力を強化する。
- ② 安定的な事業基盤の構築…入札に頼らない事業基盤および営業体制を構築する。
- ③ 事業推進体制…評価事業の専任者配置により、計画の着実な実施と、評価者・事務局・受審事業者・第三者評価推進機構などとのコミュニケーションの強化を図る。

また、WACとして新しいサービス分野の評価に取り組むことも重要な戦略としております。そのための評価者育成・補強を行い、評価活動の幅を広げていくことで、安定的な受審先確保につながるものと期待をしています。

今期は前述の事業戦略を関係者全員で一歩ずつ確実に実行することで、WACに貢献できる事業として自立することを目指してきました。その結果、評価件数は55件と前年並みを確保することができ、母子支援、福祉用具、障害関係、共同生活援助、認可保育所等、新しいサービス分野の受注もできました。特に母子支援は社会的養護のサービス分野につき、来期に継続して評価資格が得られたことは、WAC第三者評価活動の幅が広がり、大きな成果となりました。

今後の作業は、評価の納期に向けて、報告書作成、事業者へのフィードバック、第三者評価推進機構への報告書提出となりますが、評価者、事務局が丸となった取り組んでいきます。

来期(中期計画2年目)に向けては、前述の3つの事業戦略の初年度の実績を見直し、新たな課題を整理し、第三者評価事業のさらなるステップアップに臨んでいきます。

(第三者評価事業担当/渡邊好造)

## 担い手の養成研修を各地で実施

### 介護保険の新総合事業

介護保険の新総合事業（新しい介護予防・日常生活支援総合事業）が全国の自治体で広がっています。家事や外出支援などの日常生活を地域住民が手助けすることで、虚弱者や要支援者の重度化を防ぐという狙いですが、担い手不足が大きな課題となっています。多くの自治体が担い手である「生活支援員」の養成に乗り出しており、WACはその研修事業を受託しています。

2015年度の東京都江東区から始まり、2016年度は愛知県（株式会社パソナからの受託）、2017年度は東京都府中市と八王子市からの委託を受けています。自治体とは別に、東京しごと財団からも2015年度から3年続けて研修事業を引き受けています。東京しごと財団は都内各地のシルバー人材センターを統括しており、同センターの会員も生活支援員として期待されているためです。

研修修了者には、かつての3級ホームヘルパー並みの知識や能力が必要とされていますが、今は、3級ヘルパーの制度がないのでテキストも存在しません。そこで、WACは出版社の日本医療企画と一緒にテキストを作るところから始めました。WACを通じてテキストは全国に広がっています。

2017年度の生活支援員の養成研修

事業は、府中市で3日間・18時間の講座を年3回、八王子市では2日間・12時間の講座を年3回開催しています。平日に開くので、受講生は無職やシニアの方が多く、特に65歳以上の方が目立ちます。こうした研修は市町村に任せられていますが、問題があります。東京しごと財団でシルバー人材センターの会員向けの研修を修了しても、八王子市や府中市で再び生活支援員の研修を受けないと総合事業の担い手になれません。

八王子市では、シルバー人材センターが実施する研修を終えても、八王子市の同センターではあまり仕事がないので、改めて八王子市が主催する担い手研修を受講したという方がいました。両方ともWACが担当している研修なので、講師もテキストも同じ。「あれっ？ どうしたの」と参加



府中市の生活支援員養成研修で高齢者疑似体験をする受講生（上下とも）

者たちは戸惑っていました。

研修内容は自治体が独自に決めることができます。しかし、同じ講義を再受講するのは、時間も経費も無駄だと思います。いずれ資格の統一を図らないと、受講生は増えていかないでしょう。3級ホームヘルパーという旧資格が復活する可能性もあるかもしれません。

また、八王子市では、研修の最終日に就職面接会を行います。総合事業の「訪問型サービスA」に参入している15の事業者が、事業所のPRをしながら「ぜひうちで担い手になってほしい」と話をします。その後、別の日に受講生がそれぞれの事業所に赴いて登録をします。登録をすれば、仕事があったら紹介してもらおうということになっています。

就職面接会には市内全地区から多くの事業者が参加していますが、修了生のほとんどは自宅の近くの勤務地を希望しているのが現実です。

自治体としては、若い人も受講してほしいようですが、今のところ高齢者一色で中には80歳代の方もおりました。元気なシニアの方々に、担い手として活動してもらえる仕組みをつくり、生きがい支援につながるような研修になればと思います。

WACは、総合事業について講師の手配をはじめカリキュラムの作成も手掛けてきています。ポイントの皆さんにも活用していただきたいと思います。ご興味がある方はぜひご一報ください。

（研修・教育担当常務理事／平野陽子）

## 「男の手料理教室」は12年目に

### 品川区からの「介護予防」委託事業

WACは、介護予防のための3つの事業を手掛けています。「男の手料理教室」と「わくわくクッキング」、それに昼食提供の「食事処」です。いずれも東京都品川区からの委託事業です。

品川区への提案から始まった「男の手料理教室」は今年度で12年目を迎えました。5月と9月から2コース、それぞれ10回、合計で年間40日開きます。参加者は約100人。

「わくわくクッキング」は、女性も参加するので華やかな雰囲気です。一人暮らしの高齢者や老親との同居女性が増えていきます。調理だけでなく、地域の方とのコミュニケーションや情報交換の場にもなっています。区民に大変人気があり、募集開始日の朝は、WACの電話が鳴りやみません。「食事処」は、毎月第3火曜日に1000円程度の食事を提供しています。外出の機会が少ない65歳以上の方を対象に、地域の民生委員を通じて参加者を募っています。

「男の手料理教室」の卒業生と先生が料理を担当しています。レストランのような雰囲気のせいか、回を重ねるごとに参加者の服装がおしゃれになっていきます。

これらの事業は品川区と契約し、WACポイントの「さしすせそ」の成塚江見子さんが現場を取り仕切っています。成塚さんは元WAC事務局員で、認知症疑

似体験や高齢者疑似体験の担当でした。

講師は、6年目の関本美貴先生と今年度からの狩野蘭子先生の2名体制です。狩野先生は20代。最初は緊張や戸惑いがありました。が、いまでは生徒さんたちのアイドルです。

来年度も継続して品川区からの委託事業として行っていく予定です。料理教室は、住民同士のコミュニケーションの輪を広げ、ご近所同士のつながりに役立っていると思います。料理教室に参加した方々で、親睦会（ほぼ飲み会）も開かれています。

そこからコミュニケーションカフェなど居場所づくりなどにつながっていくけば、と考えています。若者との交流もあり、毎年、東京医療保健大学や日本歯科大学東京短期大学の学生さんが見学、実習にきています。（研修・教育担当常務理事／平野陽子）



狩野先生から指導を受ける受講生

## 認知症カフェ講座に15人参加 「Dカフェ・ファミヨ」を訪問

### 「コミュニティカフェ開設講座

今年度のコミュニティカフェ開設講座は、自主事業の「認知症カフェ・ケアラズカフェ」の講座からスタートさせた。

7月8日から8月6日まで全4回の講座には、女性10人、男性5人の計15人が参加した。

関東地方の介護施設や地域包括支援センターにチラシをFAX送信したこともあり、参加者は専門職が半数を占めた。

職場で認知症カフェを開くため、あるいは、すでに開いているが、より良いカフェの運営方法を学ぼうとする人たちである。

なかには、認知症の本人・家族、それに地域住民も集まるカフェを開設したいという山形県から参加した一般の人もいた。

第1回はカフェを既に運営している人たちから現場の声を届けた。

「すもカフェ」（千葉県船橋市）、「八王子ケアラズカフェわたぼうし」（東京都八王子市）、「認知症カフェかさね」（千葉県原市）、「認知症カフェおれんじ」（東京都小金井市）の4カ所である。

第2回は、東京都目黒区の認知症カフェ、「Dカフェ・ファミヨ」に赴き、主宰者の竹内弘道さんから開設の経緯を聞いた。病院やデイサービス施設などでもカフェを運営しているだけに、その豊富な認知症ケアの話には説得力があった。

福祉ジャーナリストの浅川澄一・WAC

「Dカフェ」で竹内さんから話を聞く（第2回）



運営者の事例発表を聞く受講生（第1回）



常務理事も「地域包括ケアと認知症カフェ」のテーマで話した。

第3回は、千葉県柏市でケアラズカフェを運営している「NPO法人ケアラズネットみちくさ」理事長、布川佐登美さんが登場。スタッフの役割分担やイベント・飲食の提供法の話のほかチラシをそれぞれが作った。事業企画書の作成という実践的な指導も盛り込まれた。

最終回には各自が企画書に基づいてカフェ開設プランを発表し、3月の全国交流会で発表する候補者を選んだ。

コミュニティカフェ開設講座はこのほか、千葉県福祉ふれあいプラザの出張県民研修として千葉市で行っている。

（コミュニティカフェ事業担当／昆布山良則）

「WACゆずり葉」

(兵庫県尼崎市)

## 「その身になってみる」 認知症高齢者疑似体験に期待されること

WACゆずり葉では、毎年、大阪で開催されている「バリアフリー展」(西日本最大級の福祉機器展)での認知症高齢者疑似体験の出展協力をしており、ここで情報を得た福祉施設の職員研修や、地域包括支援センターの福祉イベント等の依頼にも対応している。

近年は特に、医療や薬剤師等の専門職や、行政関係からの研修依頼が増えています。

これらは、地域包括ケアの取り組みに向けた在宅重視のシフト変更に即して、対応しなければならぬ医療業界の役割認識であろう。

9月は、世界アルツハイマー月間ということもあるのか、一般社団法人「日本訪問歯科協会」では、全国各地の6ブロックにおいて、認知症に対する理解を深めようとする研修を企画され、大阪、高松、博多での研修会を私達が担当した。

参加された歯科医師の方々には、認知症高齢者疑似体験プログラムから「トイレを探して」を見て、その後ワークショップ方式で意見交流をしていただいた。

高齢者がトイレの場所が分からず、あちこちのドアを何度も開け閉めしながらあたりを見回してみる映像についても、「特に違和感や奇異な感じはない。お年寄りとして当たり前の行動であるが、必要に応じて優しい声掛け

が必要とは感じるが…」と発言された。さすがに、在宅や施設で多くの高齢者に接しておられる目線の優しさに感心させられた。

また、神戸市の区役所職員研修では、案内担当や年金・保険、住民票等の手続きの窓口担当者から、高齢独居者の置かれている現状について話があった。「役所から来た郵便物を封も切らずに、『こんなの来たけどなんですか?』と持ってくる人がいる」「順番待ちをして、窓口に来てから、『何の証明がいるのかな?』と考え込んでしまう!」。

身近に気軽に相談できる人がいないこと、迷惑をかけまいと必死で生きておられる様子が浮き彫りにされた。「助けて!」を発信できれば、もっと楽に生活できるのになあ〜という思いとともに、総合事業で取り込まれるサポーター養成が、ここに必要なんだと実感した。

WACのもう一つの取り組みに、「高齢者疑似体験・うらしま太郎」がある。これも、今から20年近くになるだろうが、介護教室の講師としてお世話になったドクターが開業早々のスタッフ研修として、体験してくださいました。

それは、来院するお年寄りが診察用ベッドに移る時、ハイハイの姿勢で乗り移るのを不思議に思われたとの事。

そこで、「先生が疑似体験してみられたら?」と勧めた。体験した先生は、「分かったで!!あの狭いベッドに乗るのは、見えている方向からでないといけない!」と、納得された。

その身になってみるを体験してくださった先生は現在、尼崎市内で在宅医療のパイオニアとして、多くの市民の信頼を得て、大活躍しておられる。

今後疑似体験とワークショップという手法は、多くの人の共感を得、優しさを生み出す力となる取り組みである。

(代表/桑山信子)



日本訪問歯科協会の認知症研修会。香川県高松市で2017年9月10日に開かれた「かがわ認知症予防フェア」で



神戸市の区役所職員研修で

『ふれあいねっと』は、個人正会員144人、個人賛助会員813人のほか、以下の法人・団体のご協力により、発行しています。

あいおいニッセイ同和損害保険㈱/㈱ウェアラブル環境情報ネット推進機構/(-財)高齢者住宅財団/(-社)コミュニティネットワーク協会/(公財)さわやか福祉財団/㈱さわひろば/篠原保医療情報専門学校/㈱SSSネットワーク/(-財)全国勤労者福祉・共済振興協会/テクニカルコミュニケーションズインテリジェントジャパン㈱/㈱東京山の手まごころサービス/東友会関東支部/㈱ナイテングール/名古屋大谷高等学校/(-社)日本健康麻痺協会/(-社)日本産業カウンセラー協会/㈱日本心身機能活性療法指導士会/(-社)日本青少年育成協会/久光製薬㈱/㈱リシステム/ YKK AP㈱

※五十音順。㈱=株式会社、(株)=有限会社、(-財)=一般財団法人、(公財)=公益財団法人、(-社)=一般社団法人、(公社)=公益社団法人、(学)=学校法人、(N)=NPO法人



## あなたの暮らしをもっと豊かに、生き生きと 公益社団法人長寿社会文化協会 WAC へ 入会しませんか！

WACはWonderful Aging Clubの略  
楽しく年を重ねていきましょう！

個人賛助会員の年会費は3,000円  
会員誌『ふれあいねっと』が届きます  
(個人正会員の年会費は、10,000円)

### ●WAC会員の特典●

会員が安心してWACの活動に取り組めるよう、会員補償制度を設けています。

### ●ご入会およびお問合せ●

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 1 階 公益社団法人長寿社会文化協会  
☎ 03-5405-1501 代

### ●年会費のお振込先●

ゆうちょ銀行振替口座 00150-1-33737 公益社団法人長寿社会文化協会

#### 表紙の写真は：

右 上 隅 ● 千葉市で実施したコミュニティカフェ開設講座で市内のカフェを見学する受講生たち (P13)

右 側 の 上 か ら ● 千葉県福祉機器展の折り畳み電動カート試乗コーナー (P11) ● 2017 年度 WAC 定時総会 (P3～5) ● 千葉県福祉機器展で行われた体操教室 (P11) 川崎市介護人材マッチング・定着支援事業の受講生募集チラシ (P8)

左 側 の 上 か ら ● 東京都品川区からの介護予防委託事業「男の手料理教室」(P13) ● 「かがわ認知症予防フェア」での認知症疑似体験コーナー (P14) ● 市原市八幡公民館に出張した千葉県福祉ふれあいプラザの一般県民研修 (P10)



2018年1月31日発行 通巻274号

発行人： 升田 忠昭

編集人： 浅川 澄一

編 集： 昆布山 良則、小山 環

発 行： 公益社団法人・長寿社会文化協会

〒105-0011

東京都港区芝公園 2-6-8

日本女子会館 1 階

TEL：03-5405-1501 (代)

FAX：03-5405-1502

制 作： 岡村直実 (JCユニット)

印 刷： 株式会社キタジマ

定価 400円 (税込)

## 理事会の報告

### 12月にWAC30周年記念イベント

WAC は 2018 年に設立 30 年を迎えます。17 年 11 月 10 日に開かれた第 6 回理事会で、WAC 創立 30 周年記念イベントについて検討しました。開催日は 12 月 8 日 (土) の予定です。

理事会ではテーマを巡って議論が沸騰、町野美和理事が提案した「人生 100 年の生きがい」に多くの賛同者がありました。テーマとイベント内容は、今後も検討・修正を加えながら、これまでにない、時代に合った新しい発表・発言の場になるよう企画していきます。

当日の理事会では、会員異動のほか、上半期の収支状況について、以下のように報告がありました。

「上半期の収支状況は、昨年度同様、収益事業において厳しい状況が続いており、下期も厳しい状況が続くと予測されますが、そのような状況の中で、今年度委託を受けた川崎市介護人材マッチング・定着支援事業が収益に大幅に貢献する予定です」。

事業別の活動報告では、千葉県福祉ふれあいプラザが千葉県の管理運営状況評価で 3 年連続最高位の「優良」評価をもらったことや国際医療福祉大学の実習先になったこと、第三者評価事業は評価者の増員、初めて福祉用具サービス事業者を評価するなど活動の幅が広がっています。

また、千葉県福祉ふれあいプラザの出張県民研修として千葉市で実施したコミュニティカフェ開設講座が千葉県内 15 市町村から延べ 159 人を集め、コミュニティカフェや認知症カフェの立ち上げに貢献しています。

港区アクティブシニア就業支援センター「みなと\*しごと 55」の運営は、上期が前年度比で就職者数など低調な実績となりましたが、合同就職説明会や再就職支援セミナーが控えているため十分挽回できると考えられます。

明るい話題として、70 代以上の方の採用実績、ハローワークとの定期的な説明会の開始などがあります。また、港区の監査も問題なしと評価されました。

## 「ふれあいねっと」バックナンバーのご案内

1冊400円(税込) + 送料(メール便)でお分けします。代金後払い(郵便為替・銀行振込、手数料お客様負担)です。在庫がなくなり次第販売終了となりますので、あらかじめご了承ください。

## 2017年3月号 (No.273)



- ・巻頭言(須藤康夫 理事長)
- ・WAC ポイント探訪  
笑顔弾ける 男の手料理教室
- ・ポイントからの活動報告  
3年連続でコミカフェ講座を開催  
音楽で人の心を癒す
- ・主要事業の報告
- ・オーストラリア視察報告
- ・ボランティアとオリピック②
- ・外国人技能実習制度に介護職が追加になることについて(須藤康夫 理事長)

## 2016年10月号 (No.272)



- ・WAC ポイント探訪  
健康マージャンでいきいき! (WAC 豊齢健康の街づくり)
- ・全国 WAC ポイント一覧
- ・熊本の今を知る——支援活動報告 (小林里美 常務理事)
- ・ボランティアとオリピック①
- ・WAC 定時総会報告  
高齢者疑似体験や第三者評価が健闘  
前年度を上回る 367 万円の黒字に
- ・主要事業の報告
- ・惜別 下河辺淳初代会長が逝去

## 2016年6月号 (No.271)



- ・Message「行政の『代行』と介護人材の育成に活路」(須藤康夫 理事長)
- ・地域包括ケアを目指して  
山形県酒田市の日本版 CCRG、千葉市のコミュニティカフェ
- ・主要事業の報告  
うらしま太郎はセット販売が大躍進  
新総合事業に対応した研修を受託  
第三者評価は13年で196件の実績
- ・開設講座受講生が開いた4カフェをルポ
- ・ポイントからの活動報告  
橋本市でコミュニティカフェ開設講座  
ヘルパーの調理実習研修
- ・惜別 国原徹さんが逝去
- ・「編集長の眼」No.10

## 2016年4月号 (No.270)



- ・Message「専業主婦から WAC と共に 20 年」(茶山ちえ子 常務理事)
- ・コミュニティカフェ開設講座 自主事業として2期実施
- ・全国交流会で「コミュニティカフェプラン」発表
- ・全国に広がる認知症カフェ  
WAC が手掛ける認知症カフェ  
千葉県で開設相次ぐ4カフェをルポ
- ・主要事業の報告  
「新しい総合事業」従事者養成研修を受託  
元気高齢者向け施設を第三者評価
- ・在宅介護フォーラムを東京と滋賀で開く
- ・「編集長の眼」No.9「『拠点型サ高住』に注目、地域包括ケアへの近道」

## 2015年8月号 (No.269)



- ・Message「事務局として『裏方』に徹したい」(平野陽子 常務理事)
- ・WAC 定時総会  
会長に京極高宣さん、理事長に須藤康夫さんが就任  
前年度の収支 213 万円の黒字に  
新役員一覧
- ・全国の WAC ポイント一覧
- ・主要事業の報告  
「生活支援サービス研修」を始める  
麻雀牌の「パイゲーム」  
脳トレに効果、認知症予防に
- ・「編集長の眼」No.8「農家で認知症ケア オランダで大人気」

## 2015年6月号 (No.268)



- ・Message「『市民』としての会員の感覚を大切に」(鷹野義量 監事)
- ・3地域でコミュニティカフェ開設講座
- ・全国交流会で「私のコミュニティカフェプラン」発表とグループ討論
- ・2013年度を受講生が開いたコミュニティカフェ紹介
- ・「認知症カフェ」が続々登場、地域活動して広がる
- ・ポイントからの活動報告
- ・主要事業の報告
- ・「編集長の眼」No.7「被災地にコミュニティカフェ、『まちのLDK』として好評」
- ・お知らせ

## ご注文

お送り先の郵便番号、住所、電話番号、氏名、希望の号、冊数を下記までお知らせください。



E-mail : iken@wac.or.jp ● FAX : 03-5405-1502 ● TEL : 03-5405-1501

公益社団法人長寿社会文化協会